

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270800315		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・えびすヶ丘		
所在地	島根県益田市下本郷町705番地29		
自己評価作成日	2023年 8月 31日	評価結果市町村受理日	令和5年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今までの生活習慣や性格を大切に、できる力を発揮しながら、利用者の方が自分のペースでその人らしく暮らす事ができるよう努めている
 ・入居者の方の状態変化・重度化に伴う苦痛や不安等への細やかな対応を行い、主治医や家族の方と連携を取りながら住み慣れたホームで安心して暮らし続けることができるよう努めている
 ・地域や家族の方との繋がりを大切に、楽しみへの支援も行いながら心豊かに暮らす事が出来るよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりの状態を把握し普通の生活が穏やかに生き活きと過ごす事が出来る様に日々コミュニケーションを取りながら支援している。毎年季節の行事として柏餅作り、七夕飾り、節分の豆まき、雛祭り等行なっている。コロナ感染がゼロになった訳でもなく思う様に外出が出来ない分毎日の生活の中にテレビ体操、下肢運動を取り入れたり施設内で全職員と利用者で夏祭りを催しスイカ割り、お菓子の掴み取り、シャボン玉飛ばし等雰囲気を変えて楽しんでいる。高校生の実習の受け入れや職員の内部、外部研修にも積極的に参加して多くの学びを得ながら成長に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく今までの生活に近い環境を作り出す等を盛り込み、普段の暮らしに活かせるよう、月1回職員会議でケアを振り返り、足りないところは検討し全職員が同じ認識でケアが提供できるように努めている。	起床時間、食事時間等が利用者にとって早ければ生活のリズムが乱れない程度に理念に基づいてひとり一人の動きや生活の仕方に合わせた支援をする様に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事への参加は行っていないが、5類となり少しずつ散歩に出かけ、近所の方と挨拶が交わされるようになった。地域の方から野菜や花をいただき繋がりは続いている。	開設当時の自治会とのつながりがあり溝掃除等地域の行事に参加している。事業所をいつも気に掛けて貰っており差し入れ物や挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で積極的な地域貢献はできていないが、コロナ禍での認知症の方の過ごし方や感染予防の取り組み等を運営推進会議で報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で文書開催が主となっていたが、7月より会議を再開し、参加者の方に直接ホームの状況を伝え意見をいただけるようになった。	運営推進会議には開設当初より関わっている地域住民が数名いるので心強い。「ヒヤリハット」ばかりではなくて良い事もたくさんあるので「ニヤリハット」等良い報告もしたらどうか」等視点を変えた助言を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通しホームの状況やケアの取り組み等を伝えたりしながら連携を深めている。又日々のケアや運営等で困っている事はその都度相談し、アドバイスや支援協力を得ている。	良い関係を築いている。事務的な事や書類の書き方等も相談してる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、全職員で振り返りを行い身体拘束に繋がる行為がないか確認している。又勉強会を行い、正しい理解と防止に努めている。	法人の年間研修計画に沿って学習し身体拘束はしていない。セルフケアチェックを実施しており改めて振り返り日々職員間で気になる所があればお互い注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	リモート研修や内部研修を実施している。年2回虐待防止自己チェックを全職員実施し、職員会議でケアの振り返りや業務・職員人数等の検討・改善を行い働きやすい環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度利用者はおられないが、研修会等の参加を行い、知識を深めていくよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にすべての書類に具体例を示しながら説明をし、理解、同意を得ている。改定等あればその都度説明し同意を得ている。解約時には不安や疑問を残さないよう相談の機会を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日々の言動の中から思いを察するように努めている。又年1回、家族アンケートを実施し意見・要望等を確認したり、面会時や電話・お便りでホームの様子を伝え、要望や意見を確認するようにしている。	利用者に変化があればすぐ連絡を取り事業所での様子や写真、エピソードを添えた「ひなたぼっこ便り」を月1回家族に送付し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や毎月の職員会議で意見交換をし、情報の共有や要望を聞き意見が言いやすい雰囲気作りを努めている。ホーム長会議で上司に意見・要望を伝え、現場の意見を汲み速い対応に努めている。	利用者の生活の場であるが故に日々のケアの些細な事でも報告し合い何でも話せる職場の雰囲気がある。管理者は職員の生活と健康を守る立場からもシフトの柔軟性にも配慮して出来る事から取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。また職場の悩みや疲労等に対し、相談にのったり、有給消化の取得等働きやすい環境づくりに努めている。各自が役割があり、やりがいに繋がる工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修会を開催し交代で全職員が参加できるようにしている。又ホームで勉強会を開催している。外部研修はリモート研修の活用を行っているが頻度は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流ができていないが、法人内の管理者同士の交流は月1回行っている。又コロナ対応として法人内で応援体制を取り、サービスの維持や向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談をし本人の状態を家族やケアマネ・サービス事業所の職員から聞き、より多くの情報を得た上で少しずつ受け入れてもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの家族の苦労やサービスの利用状況等を把握し、事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合い納得した上で次の段階に繋げるよう丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に体験入居を行い、状態を見極めている。体験で入居が難しい場合は、家族・ケアマネ等と今後の必要な支援を検討し、本人・家族の不安を最小限にするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で役割や楽しみが持てる場面を持ち、職員も共に楽しみ、共に暮らす関係づくりに努めている。その中で職員に利用者から生活の知恵や技等を教えてもらえる場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子は毎月お便りで伝えている。又面会時や電話で状態を伝え家族の方の思いを確認し、共有しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、今までのような馴染みの関係性を継続していく事は難しいが、ホーム内で関係性を深めたり、ドライブに出かけ、馴染みの場所の景色を見る等の工夫を行っている。	だんだん知り合いも少なくなってきたおり面会は家族が多い。家族からの要望もあり2ヶ月に1回美容師の来訪で髪をカット、セットして貰っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルに繋がる事もあったが、個々の性格を把握し、職員が調整役となり関係性への配慮をしている。お互いが楽しく暮らせるよう、場面や環境への工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居の際は、支援の内容・注意が必要な点について情報提供し、連携に心がけている。退居後も相談に応じる事を伝えている。看取り後、落ち着いた頃に手紙と共にアンケートを送付し、思いを確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方から情報を得たり、日々の生活の関わりの中から気持ちや希望等を聞いたり、察したりしながら支援している。毎日のミーティング時の話し合いや介護記録等で情報を共有している。	中々言葉を発する事が困難な利用者に対しては、言葉に出来ない間に家族や職員が先回りをしてしまわない様にじっくり待つボソッとした言葉やつぶやきに耳を傾け職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族の方や、ケアマネの方により一般的な情報を聞いている。また入居されてからは、面会時や電話で家族の方と情報交換を行いながら詳しく把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態や状況を理解し、職員は毎日の申し送りを通じて意見を出し合いながら把握し共有する事で細かい支援につなげている。できる事への見極めをしながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態を職員でアセスメントし、本人の思いや望む暮らしを軸にし、家族の方からも意見や要望を聞きながら、その人らしく暮らし続けることができるよう具体的な内容を盛り込んだ個別計画を作成している。	利用者、家族の思いを尊重し楽しみ事、得意とする事を含めた介護計画を作成し状況に適したプランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録に心がけ、職員の気づきや利用者の状態変化、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を個々のケア記録に記載し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、柔軟な対応を行っている。主治医の自由な選択や通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、避難訓練等では消防・地域の方との協力体制はできている。ふれあい会館や近隣公民館で行われる地域活動はコロナの影響で中止されているが、築いてきた関係性は維持されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば主治医の変更はせず継続対応している。協力医に変更しても安心して医療を受けられるよう努めている。又受診・往診の結果は家族に報告し職員間でも情報共有している。	利用者、家族の希望の支援をしておりかかりつけ医や協力医の往診支援をしている。整形外科、精神科等の専門医の受診や夜間緊急時の対応も可能で適切な医療が受けられる様にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており利用者の健康管理や状態変化時の相談や指示・対応を行っている。介護職と連携し、些細な変化等も職員全体で共有しながら、必要時は適切な対応・受診ができるような体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と小まめに情報交換を行い、早期退院に向けスムーズに受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時には、家族、主治医、ホーム側と話し合いの場を持ち、方向性を決めるようにしている。終末期の場合は利用者の変化に応じ、医師・看護師・職員が連携をとり、納得した最期を迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	重度化した場合の対応や看取りをしている事を説明し同意を得ている。長期利用者が多く年齢も高くなってきており利用者に対して自然な看取りに繋がる様に職員も共有して事業所で出来る最大限の努力をしながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で夜間時の緊急対応、疾患をもった利用者への対応等のミニ勉強会を行い、急変時の対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災時の避難訓練を実施し、消防署員の指導を得ている。運営推進会議では地域の方より、自然災害時のアドバイスを受け、協力体制を築いている。風水害の避難訓練は年1回実施している。	地震、防災活動隊の役割分担も決めてあり自治会、地域との協力も得ている。長年住んで居る人からのアドバイスもある。夏にはペットボトルの水を凍らせたもの、冬はカイロ、防護服の備蓄品も加えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や日々の申し送り等でケアの仕方 や職員の言動を振り返り、見直し改善に努 めている。暮らしの中で、年長者として敬意 を払い対応するよう努めている。	食事介助時他の利用者の目に触れない様に したり言葉の使い方や居室に入る時のノック の音等に気を配っている。職場会議ではグル ープディスカッションで振り返りをして職員 間の意識を高め合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	全ての事への意思表示は難しいため、出来 る事からなるべく自己決定出来る場面を作 る努力はしている。日々の生活の中で希望 や思い、嗜好など見極めるように努力してい る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の性格や今までの生活習慣、できるこ とや楽しみを把握して個別支援に繋げ、自 分のペースで暮らすことができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	自分でできる方は行ってもらい、難しい方 には、その方の好みを踏まえ対応したり、希望 を聞きながら支援している。訪問カットを利用 し、希望を伝えながらカットしてもらいお しゃれが保てるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	行事食を定期的に行っている。畑でできた 野菜や近所の方にいただいた野菜と一緒に 調理し、食べる楽しみに繋げている。好物を 聞いたり、色どりや味付け等を工夫し美味し く楽しむ事ができるようにしている。	季節の食材を使い旬が感じられる献立を工 夫している。利用者は何でも好んで食べてい る。シメジの下処理等出来る事を職員と一緒 にする事もあり料理の匂いや食材を切る音を 耳にし職員と共に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個々に合った食事量・食事形態を確認し、 状態に応じ柔軟に変更している。食事が摂 りづらくなってきた方にも、工夫して提供し ている。水分は飲みやすい物やゼリー等も提 供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、自分でできる方には声かけを行っ ている。自分でできない方は義歯洗浄の介 助を行い清潔が保てるようにしている。歯科 医や歯科衛生士の方に定期的に個々に 合った適切なケア指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行いトイレでの排泄支援をしている。夜間は必要な方にはポータブルトイレを設置したりし、それぞれの方に添った排泄対応を心がけている。	トイレで自立した排泄が出来る様に支援している。失敗する利用者が多いが利用者の気持ちを大切に見守り、必要があれば手助けをする等して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材、献立の工夫を心がけたり、水分補給の重要性や身体を動かすことの大切さを意識し対応している。起床時には飲み物の提供をしスムーズな排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	頻度や時間帯への個々の希望に応じた支援は難しい面もあるが、入浴時は1人1人ゆっくり対応している。重度化した方、負担が強い方には2人介助で対応し安楽に繋がる支援をしている。	週2回の入浴で家庭用バスタブで利用者の楽な入浴方法で支援している。嫌がる利用者にはタイミングに合わせて声掛けをして気持ちが良い入浴が出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ドライブや散歩・日光浴等を取り入れたり、日中の活動を促し一日の生活リズムを整え、利用者のペースで午睡や就寝ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ごとにファイルに整理し、内容把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し服薬確認している。処方の変更時は状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢な方が多くできる事も限られているが、家事作業や趣味活動・外出等の支援を日々無理なく継続して行う事で、役割や楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で買い物や地域行事への参加は中止しているが、人込みを避け外出やドライブはできるだけ行い、外出支援の継続に努めている。又玄関先に出て日光浴を行ったり、近所を散歩したりし外気に触れ季節を感じるようにしている。	事業所の周りの散歩、近所へ回覧板や配布物を持って行く等している。季節毎に新緑や花見、運動公園、神社への参拝や海へ日々変わる景色を見にドライブに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小人数ではあるが、小遣い程度のお金を所持している方もおられるが、コロナ禍で買い物に出かけられず、使用はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方より荷物や手紙が届けば、電話やハガキを送る等、思いを伝える場面を持ち、家族の方との繋がりが保てるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間や廊下等の共有スペースには季節の花や手作りの物を飾る事で、会話の展開につながったり寛げる空間となっている。居間は皆さんが自然に集まりゆったりと過ごす事ができるようソファを配置している。	明るくゆったりした空間であり利用者同志のトラブルを防ぐためソファの配置も考慮している。外の景色が眺められテレビ体操をしたり料理する姿も見られ新聞、季節の飾り物、置物の位置も危険が伴わない様にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子を設置し、利用者同士で寛げるスペースがある。又、気の合った方同士でソファに座って寛いだり、独りで過ごす事を好まれる方の寛げる場所があったりと、心地良い場所の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具等使い慣れた物を持参してもらったり、家族の写真を置いたり、心地よい場所となるようにしている。一方で家にあった物があると混乱に繋がる人もあり、状態に応じ個別に対応している。	家族写真、テレビ、ハンガーラック等自分好みの物を置いている。又帰宅への一心から持ち物を整理したり荷物にして家に帰ろうとする利用者もいる為、箆笥等廊下に置いてある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全衛生推進者を置き、定期的にホーム内・外の点検を行い、不便な場所や危険箇所はすぐに本社へ報告し改善している。できる事やわかることを活かした環境への配慮も行っている。		